

令和6年度 石川県立金沢北陵高等学校第28回卒業証書授与式 式辞

立春の大雪をもたらした寒波が過ぎ去り、本格的な春の訪れが感じられる本日ここに、ご来賓の皆様、ならびに多くの保護者様のご臨席を賜り、石川県立金沢北陵高等学校第28回卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びであります。心より御礼申し上げます。

今、卒業証書を授与しました163名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは「不撓不屈」の精神を胸に、標高68mの高台にあるこの金沢北陵高校に通学するため、夏の猛暑の日も冬の大雪の日も、校舎へつづく急な坂道を3年間登り続けました。また、勉強や部活動、学校行事などに一生懸命に取り組み、自らを鍛え、成長し、本日、晴れて卒業の日を迎えられました。皆さん、本当によく頑張りました。

これは、皆さん一人一人の努力の賜物であると同時に、これまで、愛情を持って支えて来られたご家族や先生方、さらにはご支援いただいた地域の方々など、多くの人達のお陰でもあります。感謝の気持ちを忘れず、今後はお世話になった方々への恩返しの意味も込めて、自分の決めた道に邁進してもらいたいと思います。

さて、皆さんも知っている通り、令和6年元旦の能登半島地震では、CS棟前の地盤が崩落し、通学に使っていたW坂の階段が土砂に流されるなど、本校は大きな被害を受けました。そのとき皆さんは2年生の3学期を迎えるところでしたね。学校は休業に追い込まれ、ようやく再開できたのは発災から一月(ひとつき)余りが経った、2月13日のことでした。それ以来、グラウンドやCS棟、第2体育館が使用できないなど、不便なことがたくさんあったかと思います。特に通学ではとても苦勞をかけました。3年生となった7月頃までは、第2グラウンドに敷いたラバーマットを通して、D棟の後ろを回り、生徒玄関の裏から校舎に入るという、とても長い道のりを歩いてもらいました。雨の日は泥水でぐちゃぐちゃになり、靴や制服が濡れたり、汚れたりして大変だったことと思います。私は歩きにくそうにしている皆さんを見て、とても気に病んでいました。なぜなら通学ルートを決めたのは、他ならぬ私だからです。学校には生徒と教職員を合わせて約550名の人が毎日通ってきます。私は学校の責任者として、まず校内に居る全ての人の安全を最優先に考え、次に快適に過ごしてもらうための配慮に努めなくてはなりません。

地震被害の後、安全性や快適性がしっかり保たれているだろうか、学校再開後、私は自分の果たすべき責任を一層重く感じていました。そんな中、ある雨の日のことです。通学のため泥水を避けながら歩いてくる生徒の団に「歩きづらくてごめんね」と声をかけたところ、「これくらい大丈夫ですよ」と元気な声が返ってきました。私はそれを今でも忘れられません。背負っていたものが軽くなったように思い、とても救われた気持ちになりました。この「大丈夫です」といつてくれた生徒の団は、皆さんの中にいます。皆さんの苦勞をいとわない元気さや、様々なことに一生懸命に取り組む姿は、この北陵高校の先行きに明るい希望を感じさせてくれました。学校が大変なときに皆さんがいてくれてよかった。本当に素晴らしい生徒たちと巡り合った。私はいつもそう思っていました。

そして皆さんは、この1年間、3年生として自分の進路と真剣に向き合い、これからの人生をどう生きるかしっかり決めることができました。また、10月の文化祭のときは大いに盛り上げてくれて、自分たちだけでなく後輩たちの思い出作りにも大きく貢献しました。部活動や資格取得でも例年以上の成果をあげ、さらにはボランティアを通した地域貢献活動に積極的に取り組んだり、大学生や専門学校生も応募するパテントコンテストにおいて優秀賞を受賞したりもしました。私は、高校生活の最終学年において、校舎が使えなくて不便な状況にあっても、こうして大活躍してくれた皆さんを誇りに思います。そして、今度は私が言う番です。これから何があっても皆さんは大丈夫です。自信を持ってそれぞれの道を歩いてください。

そして保護者の皆様。今さらですが、こうして北陵高校が震災前と変わらず、教育活動を継続できているのも皆様のご厚情があったからこそです。昨年2月9日に学校再開に関する保護者説明会を、津幡町文化会館シグナスで開催させていただきました。その節は、学校の説明に耳を傾けてくださり、そして学校をご信頼いただき本当にありがとうございました。あれから1年が経ち、お子様たちは、卒業のときを迎えられました。現代は予測困難な時代と言われていますが、お子様たちは北陵高校で学んだことや体験したことを生かし、壁にぶつかっても考えたり工夫したりしながら、自らの手でたくましく未来を切り拓いて行かれることと思います。保護者の皆様に支えられた、お子様たちの頑張りがあったからこそ、今の金沢北陵高校があります。皆様にはこれまでいろいろなご苦勞がおありだったことと拝察いたしますが、お子様たちは立派に成長され、自立への道を確実に歩んでおられます。

卒業する皆さんの思い出がたくさんつまったこの校舎は、震災から1年が経った今でも復旧の途中にあります。本校はこれからも多くの方々のご支援を受け、決して立ち止まることなく、これまで以上によりよい学校づくりに努めてまいる所存です。本校もまた新たなステージに向かおうとしています。卒業生の皆さん。本校のOB・OGとして、こうした状況にある北陵高校が今後どのように復旧・復興を果たしていくのか注目しててください。そして、それぞれの道でさらに大きく成長し、後輩たちを応援し、母校を応援してくれることを切に願っています。

最後に、これまで賜りました保護者の皆様の温かいご理解とご協力に、改めて深く感謝申し上げますとともに、希望に満ちてこの金沢北陵高等学校を巣立っていく卒業生の前途に幸多からんことを心よりお祈りし、式辞といたします。

令和7年3月4日 石川県立金沢北陵高等学校長 中村 悟